

20170226 「バルテマイのいやし」

目標：バルテマイの癒しから、祈りは聞かれるからこそ、熱心に祈るべきであると知る。

聖書箇所：マルコ10：46-52 時間：10分

暗誦聖句：「ダビデの子イエスよ、わたしをあわれんでください」（マルコによる福音書10：47）

道具：ホワイトボード、ペン

対象者：小6×1 小5×1 小3×3 小2×2 未就園児×4

留意点：子供たちはバルテマイのように切実に祈った経験は皆無だろうと思う。バルテマイの状況を推察し、祈りが私たちに与えられている重要な選択肢であることに気づかせたい。

段階	時間	教師から	子供に予想される反応	備考
課題確認	2分	<p>先生はみんなによく、祈りは聞かれますといいますね。</p> <p>では、祈りは聞かれるのならどうしたらいいのか、熱心に祈るべきであるということを今日は学びたいと思います。</p> <p>皆さんは一生懸命祈ったことはありますか。</p> <p>(それはどういうときでしたか。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい</li> <li>・いいえ</li>   <li>・ある</li> <li>・ない</li> </ul>	<p>実際よく言っているの、いいえは無視する。「祈りは聞かれる」ことを前提に本時を進めていく。</p> <p>軽い祈りと対にして示すと、問うている事柄が掴み易くなるだろう。</p> <p>食前の祈りなどはそれに該当しない例である。</p> <p>一人一人に聞いてみる。</p> <p>もし「ある」と答えた子供がいた場合は、質問する。特に論評はせず、聖書の例と比べてみようという流れで課題探求に移る。</p>
課題探究	6分	<p>エリコという町に、バルテマイという人がいました。盲人で、乞食でした。</p> <p>なぜ乞食になったと思いますか。</p> <p>そこにイエス様が通りかかったのです。あなたがバルテマイだったら、どうしますか。</p> <p>バルテマイは「ダビデの子イエスよ、私をあわれんでください」と叫び始めました。</p> <p>みんなは、周りがやめろといっても、やめないで祈ったことはありますか。</p> <p>イエス様は彼を呼び、あなたの信仰を見たと言われ、目が見えるようにされました。</p> <p>皆さんはバルテマイと比べて、一生懸命祈ったことはあるでしょうか。</p> <p>自分のためでも、人のためでも、イエス様は祈りを聞いてくださいます。私たちに救いたいからです。ですからこそ、これまでより、もっともっと熱心に祈る人になってほしいと思います。</p> <p>暗誦聖句</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わからない</li> <li>・家が貧乏だった</li> <li>・目が見えないので、仕事ができなかった</li>   <li>・見る</li> <li>・イエス様を呼ぶ</li> <li>・近づく</li>   <li>・ない</li> </ul>	<p>当時の盲人への社会の扱いを想像させる問い。仕事ができず、お金をもらえず、貧乏でいっていったと考えるのが妥当である。</p> <p>いろいろ挙げさせたい。自分の行動が言語かさえレバされるほど、バルテマイの行動が際立ってくる。</p> <p>彼が盲目であることが理解されていない場合があり得る。その際は何度でも確認させたい。</p> <p>多くの人がしかってやめさせようとしたこと、ますます彼が激しく叫び続けたことに触れ、必死さを印象づけたい。</p> <p>バルテマイの必死さと、そのように願う祈りがあるのだということを感じさせたい。</p> <p>v 49-52を朗読するだけでもよい。</p> <p>応答はとらないようにし、余韻を残す。</p>
まとめ	2分			<p>188号のテーマからの反映。</p> <p>教会の祈りの課題を一部開陳して、祷告としてもよい。</p>